

環境経営

村上木材(大阪市、佐原謙次社長)の経営方針は「木材の魅力・素晴らしさを世界中の人々に伝え、人々の心を豊かにすること」。世界から木材を集め、用途や好み、特性などに応じた提案をしていくことで、多様な木材のニーズに応じていく。

村上木材(大阪市、佐原謙次社長)の経営方針は「木材の魅力・素晴らしさを世界中の人々に伝え、人々の心を豊かにすること」。世界から木材を集め、用途や好み、特性などに応じた提案をしていくことで、多様な木材のニーズに応じていく。

木材の素晴らしさを世界中に

森林認証から脱炭素へ

村上木材

を定めるもので、同社は30年までに20年比で42%の排出削減を目指す。流通事業者として温室効果ガスの排出源は事業所の照明機器、空調設備、車両などが主になる。照明関係は既存の木造2階建て300坪の事務所を、同、矢山勝司社長)が、プレカット部材の販売先の工務店が建てた木造住宅の内装、家具がシート張りなどのケースが多いことから、工務店が施主

機(横型プレス)などの設備もある。2階は一枚板の展示を増やし、3階は生活シーンをイメージした「トークショップ」と話している。オフィスM'sでは、お客様とのコミュニケーションを大切にする。特にプレカットの納入先住宅会社の設計者を通じて、子どもたちにも木に触れ合う機会を。提供される活動もしている。村上木材も参加する木のおもちゃ「アイコニー」の取り組みなど、身近なものを木材に置き換えていくことで循環型社会への転換を推進していきたいと考えていた。

このほかにも「木の酒」づくりの事業化に取り組み、和歌山県新宮市の蔵元の事業譲渡を受け、商品化に向けた取り組みを行っている。

「木」にかかわる事業に積極的に取り組んでいく同社の姿勢を示したもので、熊野古道など外国人観光客の多い地域で世界に向けて発信していきたいと考えていた。



オフィスM'sでのワークショップ